

♣グリーン電力出資金出資者  
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

# グリーンコープでんき通信 VOL.46

2021年4月26日発行  
一般社団法人グリーンコープでんき



## 自然エネルギーが生み出す収益を地域に還元 ～自然電力の“1%FOR COMMUNITY”がカタチに！～

グリーンコープでんきは、新電力の一つである自然電力(株)が運営する「熊本菊池太陽光発電所」に出資することでその事業に参画しました。そして、自然電力(株)がすすめる地域還元の取り組みの具体化について、GCくまもと県北地域で3年をかけ検討をしてきました。

その結果、環境や自然エネルギー・SDGs関連の「本100冊とDVD 11本」を菊池市中央図書館に寄贈することになり、その贈呈式が3月17日に行われました。当日はグリーンコープと自然電力(株)の関係者をはじめ、菊池市の関係者の方々、総勢約20人がコロナ対策を入念に行い、中央図書館での式に臨みました。図書館には贈呈図書コーナーが設(しつら)えられ、子どもも大人も学べる空間となっています。

贈呈式終了後は、発電所の見学を行い、その場で地主さんと出会い言葉を交わしました。

今後も、地域貢献の取り組みは継続されることになっています。

館長に目録を手渡すGCくまもと田村  
県北地域理事 長



## 霧島太陽光発電所の完成を祝いました！

～4年余りの歳月をかけた自然エネルギーの発電所作り～

強風の中でのくす玉割  
左:熊野代表理事  
右:亀崎理事長  
(GCかごしま)



霧島太陽光発電所の愛称を「わっぜかソーラー」と名付けました。

※わっぜか…鹿児島の方言で「すごい」の意味

4月2日、待望の霧島太陽光発電所の竣工式を執り行うことができました。主催は施工主である「グリーンエネルギー霧島合同会社」(構成団体…グリーンコープでんき・ハッピーエナジー・環境エネルギー政策研究所)で、式には合同会社関係者をはじめ、地元の方々も多数参列しました。GCかごしまの検討を受けて、くす玉割りと配食ワーカーズ「グリーンスキッチンめしげ」が作った赤飯にお祝いの気持ちを込めました。

これまで一貫して地元との関係を大切にして、地域住民の要請に応えてきました。そうした姿勢によって、いくつもの難しい局面を乗り越えることができ、その一つひとつが大事な財産となって、発電所に生かされています。今後も地域に寄り添うとともに、この発電所を脱原発運動の中心に据え、エネルギーのことや自然と共生することの意味などを考える場にしていきます。

2020年4月から託送料金への上乗せが決まっている「賠償負担金」と「廃炉円滑化負担金」の問題点に関して、グリーンコープは経済産業省に2018年3月から「お尋ね」や「陳情」をお届けしてきました。それを踏まえて、2019年5月23日、資源エネルギー庁への訪問が実現し、1時間という限られた時間でしたが、意見交換の場を持つことができました。ただいくつかの質問を残したままとなっていましたので、2020年1月16日第2回目の訪問をし、さらに意見交換を深めることができました。第1回、第2回の訪問記録（経済産業省資源エネルギー庁・グリーンコープで確認済み）を要約して、シリーズでご紹介してきました。今号で最終となります。 《第2回目訪問記録から》

■第2回訪問：2020年1月16日（木）10時30分～11時45分

■対応していただいた部署：経済産業省資源エネルギー庁

電力・ガス事業部電力産業・市場室2名、原子力立地・核燃料サイクル産業部1名、電力・ガス取引監視等委員会ネットワーク事業監視課1名

■グリーンコープ 代表理事、託送料金検討委員会メンバー5名 計6名

<45号からの続き>

◆追加の質問について

G C 今の時点では、これは捏造ではないか、という気持ちを拭えないでいる。関連して一般負担金の過去分、すなわち賠償負担金の総額2.4兆円と計算されている。使用済燃料再処理等既発電費の件の応答はまだいただいていないが、賠償負担金2.4兆円は、一般負担金1630億円を根拠として計算式を出しているものの、1630億円が具体的な算定の基礎となるべき根拠とか合理性をもっていないのでは思っている。1360億円の前提があって、最終総額2.4兆円と計算されていると思うが、1360億円の根拠というのは説明できるのか。

経産省 過去45年間必要な費用について、ベースはどこかと決める必要があったので1630億円をベースにさせていただいた。

G C 過去の実績ではなくて、1630億円という、毎年続いている一般負担金の総額1630億円というのがあるの2.4兆円。今言われたように過去にかかったお金が1630億円というようにはつながらないと思う。

経産省 1630億円は、原賠機構法（原子力損害賠償支援機構法）で定められている原子力事業者の収支に照らして、安定供給、その他原子力運転等に係る事業の円滑な運転に支障を来すことのないものであることとして審査をして定めている。

G C 今赤字を出さないで電気料金が過大に大きくならない、ほどよい金額というのが1630億円。そんなお金が「過去分」といわれているものの計算基準というのはとんでも不合理に思わないか。実際、原賠機構法で一般負担金の考え方に二つ項目があって、今言われたことと、支援機構法の業務の運営に必要な額で定められているとしている。後者の業務の運営で必要な額というのは会計検査院の検査に基づいても機能していないと明言されているから、言わ

れるとおり、今電力会社が赤字を出さなくて済む金額が1630億円だと思っている。それが言われている過去徴収していなかった2.4兆円の計算根拠になっているというのはものすごく不自然。これは今後も申していきたいと思っている。それと関連して、使用済燃料再処理等既発電費の回収総額は公表していませんと言われると益々不信感が沸いて、率直にいつまで私たちはこういう理屈づけられたお金を払い続けられないといけないのか、と不安だ。

◆廃炉円滑化負担金の実学に関して（補足）

経産省 質問されている使用済燃料再処理等既発電費の件では、使用済燃料再処理等事業というのがまずあって、使用済燃料再処理機構というところが再処理等に必要な費用を各電力会社から回収をしており、いくら回収しているかというのは、我々に報告が来ている。拠出金収入予算として定期的に報告を受ける仕組みになっているが、拠出金の中で、使用済燃料再処理等既発電費として詳しく把握をする仕組みになっておらず承知していないのでお答えが難しい。

G C どちらなのか？「承知していないから答えが難しい。」「公表していません」ということのどちらなのか。

経産省 承知していないのでお答えが難しいということだ。

G C 承知したら答えられる、ということか。

経産省 持ち帰って課内で検討させていただく。

G C それでは訂正していただいてもいいか。「承知していないからお答えできません」と。それでは、使用済燃料再処理等既発電費の総額は決まっているということ。

経産省 資料が手元がないのでお答えが難しい。

G C 後でお答えいただいてもいいから。一般的通念から言えば、「過去分」だから総額は決まっているはずだと思うし、次いで「過去分」と呼ばれる使用済燃料再処理等既発電費の回収総額がいくら分かると、天井に来るのがいつの時点かも

分かる。それを知りたいので、公表していないのでないということであれば、ぜひ後日教えてほしい。知った分だけ不信感がなくなっていく。

経産省 持ち帰って課内で検討させていただく。

G C 最後一言。アメリカとか外国の原発の廃炉費用は国民にフラットに民主的に情報公開がされているという記事を見た。日本はそうはなっていない。ぜひそういう情報を民主的に公開してほしい。訊かないと出てこない、いえ、訊いても出てこないという日本の情報公開のありかたが不信感を招く。一つひとつ外国の例を習ってほしい。

経産省 私どものホームページで一方的に情報発信になっている点は反省すべき点と思っている。できるだけこういった場を持って、いろんな方と議論させていただければと思っている。いろんな方からいろんな話があり、これ以外にも別の業務を担当している関係もあって、今回も秋頃にお話しをいただいたのに書面で一回返信させていただいた上で、ようやく時間をとることができた。たいへん遅くなったが、こういった場を通じて説明をしていければと思う。

G C 今日はお忙しい中、時間をとっていただき感謝している。前回に引き続いて42万人の組合員の代表として出席した。託送料金を払う事業者として率直に何度説明をいただいてもやはり大手電力が守られており、原発が守られるためのこの措置としか思えなかったことがとても残念だ。グリーンコープでんきというのは、普通の組合員が少しずつ出資をして事業をしている。そういう意味で託送料金はどのようなものか、納得がいって払うのであればいいが、納得がいかに払わされる。そして、今年4月から(この時点は4月からとなっていた。実際の執行は10月から)賠償負担金と廃炉円滑化負担金の2つまで上乗せされるというのは、ほんとうに理不尽としか思えない。人間がつくる政策というのは、人間は完全ではないから100%素晴らしい政策にはならない。だったらなにか間違っていた時に直せるのも人間の理性だと思う。ぜひ4月からの上乗せを思い留まってほしいが、いかがか。

経産省 説明を受けて納得ができないというのは、こちらの説明がよろしくない、というのがあるのかと思う。制度措置をする中で、議論をしていく中で、なぜ託送料金なのかという議論をした結果として、より公平性が高い制度として措置をしたということだ。この措置が完全ではないのかもしれないが、一番適切な方式だと考えている。こういった考え方で措置をしたことをぜひご理解をいただきたい。

G C 新たに上乗せされるということであれば、私たちは司法の場で問うということしかできないと考えている。その際はよろしくお願ひしたい。

経産省 具体的に予定があるのか。

G C まだわからない。

G C そこまでしないといけない、という話し合いを3年間ずっとやってきている。グリーンコープでんきを生んだ母体の滋賀から鹿児島までの各県のグリーンコープ生協には約40万人の組合員がいる。託送料金にはこんな不合理があることについて、3年間話してきた。実際、グリーンコープエリアの九州電力、中国電力、関西電力に思い留まってほしいと要請をしてきた。現在、中国電力は一般負担金を電力料金の原価にも入れたりはしていない。やはり事業者の責任ということについて矜持をもってほしいという気持ちを伝えた。仮に国の政策が施行されても自ら負担して新電力に請求しないという会社の判断を持ってほしいし、経済産業省が罰しないということであれば自由はあると思うという話も各電力会社と話をしてきた。経済産業省にも2年近く、思い留まってほしいと要請をし続けてきている。こうした経過も含め、40万人の組合員にも定期的に報告してきた。長い報告なので読みたくないという人もいるが、それなりに関心をもってきている。ほんとうに4月から執行されるのであれば、司法に訴える道しかないのか、ということも検討している。だからぜひ思い留まってほしい。

経産省 なかなか難しいのは、見解の相違のようになってしまったところだ。エネルギー政策をやっていく上でどうしても必要な制度ということで実施する。一番頭にある制度の趣旨・目的を理解いただきたいところだが、その説明が足りていないということであれば、一生懸命説明させていただきたい。

G C そんなことはない。元が悪いということだと思う。いずれにしても議論と話し合いは絶対に大切なことだと思うので、これからも分からないことがあれば聞かせてほしいし、申したいことがあれば申させてもらう。国の立場からも事業者に向けてアピールしたいこと、呼びかけがあれば、ぜひしてほしいと心から思っている。

G C 賠償負担金と廃炉円滑化負担金の回収方法についてお尋ねしたい。条文をみると賠償負担金は5年ごとに見直しが必要のようだが、廃炉円滑化負担金の方はどうなっているのか教えてほしい。

経産省 賠償負担金は40年間という長期になってくる。電力需要は下がってきている中でどういう対応をするか。需要が下がれば一単位あたりの回収額は高くなる。そういったところを適正に見直せるように規定として入れている。廃炉については、それほど長期間にはならないので、そういった規定はない。期間が終われば順次終わっていくものもあるし、今後廃炉が進めば、適用する、しないはある。適用するものについては適用し、入れ替えをしながらやっていくことになる。

G C 本日は、お忙しい中、懇談の場を開催いただき感謝する。今後ともよろしくお願ひしたい。

■今号で、「2020年1月16日経済産業省訪問記録紹介」シリーズを終了します。



## ■グリーンコープでんき

- ・3月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	GC事業所 契約件数	組合員 契約件数	契約容量 (kW)
GC生協おおさか	8	58	279
GC生協ひょうご	9	30	182
GC生協とっとり	2	47	220
GC生協(島根)	1	97	413
GC生協おかやま	6	125	538
GC生協ひろしま	9	153	714
GCやまぐち生協	5	521	2,213
GC生協ふくおか	102	1,935	8,716
GC生協さが	17	112	682
GC生協(長崎)	11	215	1,072
GC生協くまもと	40	543	2,831
GC生協おおい	17	297	1,309
GC生協みやざき	2	140	530
GCかごしま生協	12	212	936
単協計	241	4,485	20,635
(一社)グリーンコープでんき(低圧)	53		382
(一社)グリーンコープでんき(高圧)	64		5,094
総合計	358	4,485	26,111

## ■3月の電源構成

### 【関西電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー  
(燃料:バイオマス)・・・95.9%
- ・家庭用太陽光発電・・・4.1%

### 【中国電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)  
・・・97.6%
- ・家庭用太陽光発電・・・2.4%

### 【九州電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)  
・・・96.8%
- ・馬洗瀬小水力発電所・・・0.5%
- ・杖立温泉熱バイナリー・・・0.9%
- ・家庭用太陽光発電・・・1.8%

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。

## ■仲間を増やそうキャンペーン実施中!

「グリーンコープでんき」をお勧めしたい方をぜひご紹介ください。

今なら、ご契約の方に「1000GREEN券」、紹介者の方へは、「500GREEN券」をプレゼントします。詳しくは、担当者まで。

## ■市民発電所

- ・(一社)グリーンコープでんきの各発電所の2021年度1月までの実績です。1月も発電は順調で、前年実績比117%・計画比114%でした。2月から出力制御が再開、3月末までに神在・深年は11日間停止しました。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	1,050,450	42,018,000
平池水上太陽光発電所	1,260	1,323,506	47,646,261
深年太陽光発電所	1,550	1,476,691	80,325,618
若宮物流センター	47	45,162	1,670,994
広島物流センター	47	42,982	1,590,334
やまぐち西部地域本部	54	54,202	1,788,666
グリーン未来ソーラ(10箇所)	244	384,557	8,075,697
合計	4,259	4,377,550	183,115,570

## ◆グリーン電力出資金

- ・皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億6,748万円になっています。
- ・出資目標額(積立目標額)は、3月26日現在11億1,271万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	200	224	16,830,000
GC生協ひょうご	94	114	8,056,000
GC生協とっとり	131	143	10,720,000
GC生協(島根)	232	244	11,010,000
GC生協おかやま	146	162	13,360,000
GC生協ひろしま	666	798	82,477,000
GCやまぐち生協	561	649	41,620,000
GC生協ふくおか	5,313	6,191	524,860,000
GC生協さが	316	360	44,825,000
GC生協(長崎)	569	634	56,851,000
GC生協くまもと	1,457	1,665	124,714,000
GC生協おおい	766	852	68,998,000
GC生協みやざき	281	318	27,845,000
GCかごしま生協	709	817	80,551,000
合計	11,441	13,171	1,112,717,000

- ・グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。
- ・2021年3月末支出総額は8億4,881万円で、残高は1億1,867万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	967,481,500
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラ発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(3月完成) 熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	118,671,279